

# 村民の記憶

## —東海村、そのとき、あなたは—

昭和 30 年 3 月 31 日、石神村と村松村が合併し「東海村」が誕生しました。

令和 7 年 3 月 31 日には、東海村が誕生してから 70 年という節目の記念日を迎えます。その記念すべき誕生日に向けて、今月号から全 6 回の連載がスタートします。

この連載では、村の歴史を振り返るとともに、その歴史の証人である村民の記憶を取材し紹介します。

episodeゼロ

### 東海村という名になる前

<sup>いにしへ</sup>  
古より人々の生活が連綿と営まれてきた東海村。  
「東海村」という名前になる前の歴史をたどってみましょう！

約1,500年前

有力者が  
古墳を築く

東海村では、約 80 基の古墳  
が確認されています。



▲東海村で発見された古墳の1つ  
東海村最大の古墳「権現山古墳」

約5,000年前

水辺にムラが誕生

子どもの頃の思い出

畑でゴボウを作っていた  
際、土中からたくさん  
土器や矢じりが出てきました。  
(男性 昭和49年生  
押延地区)



◀堀米 A 遺跡出土  
深鉢

東海村白方地区から約 3 万年前の石器製作跡が  
発見されました。

約3万年前  
「人」が現れる



▲西光遺跡出土  
ナイフ形石器

約300万年前  
深い海の底



▲(上)ホンヒタチオビガイ  
(下)スケガワギンエビス

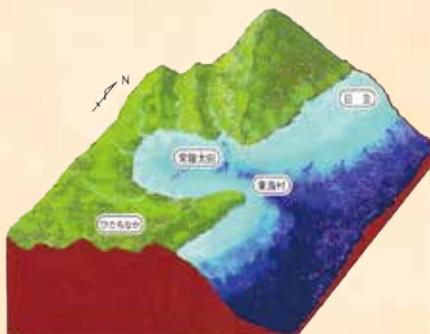
真崎浦の崖面からは、当時生息していた海の  
生き物たちの化石が発見されています。



▲戸ノ内古墳出土  
埴輪



▲縄文時代の水域想像図。今から約 5,000 年前、  
水辺に小さなムラがたくさんできました。



▲約 300 万年前の東海村  
『東海村の自然誌』(2007)より

### 真崎浦干拓の思い出

阿漕ヶ浦湖畔にあった昔の村松小学校に通っていた頃、真崎浦はまだ沼地のようなところもあり、子どもたちで水田を作っていました。  
(女性 昭和6年生 船場地区)



美しい水田地帯である真崎浦は、昔はコイやフナが生息する湖沼でした。大雨のたびに水があふれ人々を苦しめていたため、真崎浦を沼から水田にする干拓事業が始まりました。江戸時代から始まった干拓は幾度もの中断を経て、昭和13年に完成しました。



▲湖だった真崎浦  
(村松村沼地 安政三年八月西野起業地)

### 約200年前

真崎浦の干拓  
始まる

久慈川沿いには石神城が、細浦に張り出す岬には真崎城が築られました。

### 約500年前

武士たちが  
城を築く



▲石神城の深い堀

石神村・  
村松村の誕生  
(明治22年)

かつて何日も大風が  
吹き続け、ひとつのムラが  
砂で埋まったという

ちぢらんふう  
千々乱風  
伝説



▲伝説のムラが眠る村松海岸

### 約100年前

砂とのたたかい

村松海岸では、武士たちの財源となる塩づくりのムラが営まれていました。しかし、飛んでくる砂により埋まってしまったのです。J-PARC建設工事の際、「伝説のムラが砂の中から出土した」と大きな話題になりました。

東海村誕生

組合立  
東海中

大正7年、飛砂の被害に苦しめられていた村松海岸は、海岸砂防林造成の試験地に選ばれました。多くの村民の手で植えられたクロマツ林は、現在も砂から村を守ってくれています。



▲村松海岸砂防林



▲東海中学校 (昭和31年)

### 東海中学校設立時の思い出

中学2年生のときに、石神村と村松村の組合立の東海中学校ができ、自分は第1回卒業生でした。あの場所に作られたのは、村松村と石神村の中間に作ろうということになったからだろう。校舎は、前渡村の飛行場の廃材をもらって建てました。グラウンドは、大人も子どもも皆駆り出され、手作業で作りました。石神村と村松村で一緒に学校を作るといった経験があったからこそ、合併するときも違和感があまりなかったのかもしれない。(男性 昭和9年生 真崎地区)



### 【村の記憶 大募集】

現在、「広報とうかい」では、合併した時の記憶、旧村松小学校、石神小学校の記憶を募集しています。遠足はどこに行ったか、合併したときの村の様子など、記憶がある方はぜひ情報をお寄せください。情報は、電話またはメールで、下記の担当へご提供ください。

【問い合わせ】生涯学習課博物館・文化財担当(歴史と未来の交流館内) ☎287-0851 ✉syougaigakusyu@vill.tokai.ibaraki.jp